

授業科目名	脳神経医学Ⅱ (Medical Neuroscience II)		
対象学年	2年生	単位	4単位
科目責任者	はしもと こういち 橋本 浩一	所属	神経生理学
授業方法	講義・演習・実習		
概要	医師となるために必要な脳神経の基盤医学的知識の習得に向けて、解剖学・生理学・薬理学などの専門分野にわたる神経系の構造と機能を横断的に学習する。		
講義ユニットの到達目標	<p>刺激に対する感覚受容の種類と機序を説明できる。 反射を説明できる。 脳の血管支配と血液脳関門を説明できる。 脳のエネルギー代謝の特徴を説明できる。 主な脳内神経伝達物質（アセチルコリン、ドパミン、ノルアドレナリン）とその作用を説明できる。 髄膜・脳室系の構造と脳脊髄液の産生と循環を説明できる。 脊髄の構造、機能局在と伝導路を説明できる。 脊髄反射（伸張反射、屈筋反射）と筋の相反神経支配を説明できる。 脳幹の構造と伝導路を説明できる。 脳神経の名称、核の局在、走行・分布と機能を概説できる。 脳幹の機能を概説できる。 大脳の構造を説明できる。 大脳皮質の機能局在（運動野・感覚野・言語野）を説明できる。 記憶、学習の機序を辺縁系の構成と関連させて概説できる。 随意運動の発現機構を錐体路を中心として概説できる。 小脳の構造と機能を概説できる。 大脳基底核（線条体、淡蒼球、黒質）の線維結合と機能を概説できる。 痛覚、温度覚、触覚と深部感覚の受容機序と伝導路を説明できる。 視覚、聴覚・平衡覚、嗅覚、味覚の受容機序と伝導路を概説できる。 視床下部ホルモン・下垂体ホルモンの名称、作用と相互関係を説明できる。 眼球と付属器の構造と機能を説明できる。 視覚情報の受容のしくみと伝導路を説明できる。 聴覚・平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。 平衡感覚機構を眼球運動、姿勢制御と関連させて説明できる。 味覚と嗅覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。 交感神経系と副交感神経系の中枢内局在、末梢分布、機能と伝達物質を概説できる。 視床下部の構造と機能を内分泌及び自律機能と関連付けて概説できる。 ストレス反応と本能・情動行動の発現機序を概説できる。 パーキンソン病治療薬の種類と作用機序を概説できる。 統合失調症治療薬の種類と作用機序を概説できる。 抗うつ薬、抗そう薬の種類と作用機序を概説できる。 催眠薬、抗不安薬の種類と作用機序を概説できる。 抗てんかん薬の種類と作用機序を概説できる。 麻酔薬の種類と作用機序を概説できる。 薬物依存の概要を理解している。</p>		

講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	出席は広島大学医学部医学科のグランドルールに従う。 講義について；出席状況把握システムもしくはTeamsでの出席履歴・オンライン教材の視聴履歴・小テストなどにより出席をとる。 実習について；実習の欠席は、原則として認めない。
評価項目	到達目標の達成度（基本的理解と知識の応用）
評価法	中間試験と期末試験（以下、本試験と呼称する）を筆記形式（マークシート形式も含む）で行う。中間試験の範囲は解剖学（神経生物学担当）と薬理学（神経薬理学担当）の講義範囲とし、期末試験の範囲は生理学（神経生理学担当）の講義範囲とする。評価は本試験の結果（中間・期末試験の総合評価）を中心として、授業後の小テストや実習における提出レポート、講義への参加態度などを踏まえて評価する。試験開始後30分以上の遅刻は受験を認めない。合格点基準点は60点とする。本試験不合格者に対して、1回のみ再試験を行う。再試験の出題範囲は本試験の全範囲（解剖学・薬理学・生理学）とする。
予習・復習へのアドバイス	講義前後に講義資料を確認し、必要に応じて参考書を用いて、内容の理解に努めること。
履修上の注意 アドバイス	神経系という共通したシステムに対して、解剖学、薬理学、生理学など異なったアプローチで理解を進めるため、各回の講義で得られる知識をよく整理して学習する。
推奨参考書	人体の正常構造と機能（縮刷版、日本医事新報） NEW薬理学（南江堂）、標準生理学（医学書院）、カンデル神経科学（メディカルサイエンスインターナショナル）